

令和7年度 学校経営計画書

学 校 名 三次市立作木中学校

校 長 名 米 丸 康 司

I 学校の状況

学級数	3学級	生徒数	24名	教職員数	11名
メールアドレス	sakugi-j@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/junior/sakugi-j/				

II 学校教育目標

＜作木中学校区小中一貫教育目標＞

ふるさとを愛し、新しい時代をたくましく生きる児童生徒の育成

＜三次市立作木中学校 学校教育目標＞

「自律」・「協働」・「挑戦」

～ふるさとを愛し、新しい時代をたくましく生きる生徒の育成～

自律とは・・・主体性の育成

- ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学びをまとめ振り返り、次の学習につなげること

協働とは・・・社会性の育成

- ・自分のよさや可能性を認識し、他者を価値のある存在として尊重し、同じ目的に向かって、それぞれの良さを発揮しながら、協力して取り組むこと

挑戦とは・・・創造性の育成

- ・自分の願いをもち、その実現のために意欲的に取り組む強い意志と実践力のこと

＜めざす生徒像＞

- ・基礎的・基本的な学力を身に付けた生徒
- ・しっかり考え判断し、表現できる生徒
- ・課題解決に向けて、他者と協働し、粘り強く主体的に取り組む生徒
- ・自己理解を深め、他者を大切にしたい行動ができる生徒

III 使命・存在意義（ミッション）

- （1）主体的・対話的で深い学びを創造し、確かな学力を身に付けた生徒を育成する。
- （2）作木中学校区の特性を生かした特色ある教育活動を推進することで、ふるさとを愛し、地域の将来を担う生徒を育成する。
- （3）コミュニティ・スクールとして、学校・地域・家庭が協働し、生徒の成長を支える学校。

IV 重点事項（努力点）

学校教育目標の実現のために、次のような資質・能力の育成を目指す。

- 知識・技能
 - ・各教科の基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着
- 思考力・判断力・表現力
 - ・様々な情報や根拠をもとに、しっかり考え判断することができる。
 - ・自分の考えや思いを相手に応じた表現を用いて分かりやすく伝えることができる。
 - ・他者の考えを受け入れ、他者と協働し、課題を解決することができる。
- 学びに向かう力
 - ・日本や世界の魅力や問題に目を向けつつ、自分や身近な人が関わる課題に対して見通しを持って粘り強く取り組むことができる。
 - ・自分の学び方を理解し、自らの学習を調整することができる。
- 自己理解
 - ・自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重することができる。
 - ・自分の言動が相手に及ぼす影響が分かる。
 - ・自分の悩みを話せる人を持つ。

V 中心価値・行動規範

全教職員が遵守すべき規範・行動指針はつぎの通りです。

【チームで信頼される学校づくり】

- (1) 生徒の心に寄り添い、信頼される教職員になります。
- (2) 目的達成のため組織的・協働的に動く教職員になります。
- (3) 自ら学び続け、新たなものに積極的に挑戦する教職員になります。
- (4) 教育公務員としての自覚と誇りをもち、保護者・地域と協働して、生徒と共に夢の実現にチャレンジする教職員になります。

VI 現状分析

◆確かな学力

令和6年度三次市学力到達度検査 ※ () は全国平均との差, 【基礎】【活用】は全国平均との差
 <新2学年>

・国語	50.0	(- 9.9)	【基礎】	-15.3	【活用】	+ 0.2
・社会	50.0	(- 1.0)	【基礎】	0	【活用】	- 0.6
・数学	42.0	(-14.2)	【基礎】	-16.0	【活用】	- 9.5
・理科	45.0	(- 1.6)	【基礎】	- 1.8	【活用】	- 1.3
・英語	35.5	(-21.3)	【基礎】	-21.7	【活用】	-20.6

<新3学年>

・国語	53.0	(- 5.0)	【基礎】	- 3.8	【活用】	- 7.3
・社会	33.8	(-13.1)	【基礎】	-12.7	【活用】	-14.2
・数学	28.4	(-21.2)	【基礎】	-24.0	【活用】	-12.9
・理科	26.9	(-14.8)	【基礎】	-11.9	【活用】	-22.4
・英語	39.8	(-12.3)	【基礎】	-13.9	【活用】	- 9.3

- 新2学年, 新3学年ともに, すべての教科で全国平均を下回っている。特に, 新2年生は, 国語, 数学, 英語が課題である。新3学年は, 社会, 数学, 理科, 英語が課題である。平均して, 新2年生は9.6ポイント, 新3年生は13.3ポイント全国平均を下回っている。
- 新2学年は, 「学校の授業はどの程度分かりますか」の設問に, よく分かる13%, だいたい分かる50%であった。新3年生は, よく分かる15%, だいたい分かる46%であった。両学年とも, 分からないことが多いと回答する生徒は25%程度であった。昨年度と比較し増加している。
- 平日の家庭学習が, 30分未満の割合は, 新2年生13%, 新3年生31%であった。昨年度と比較して改善傾向は見られるが, 家庭学習が習慣化できていない生徒もいる。
- ☆ 基礎的・基本的な学力が定着していない生徒が多く, 日常的な授業改善, 課題の工夫, 帯時間の工夫等, 組織的な取組が急務である。

◆豊かな心

「自分には, いいところがあると思いますか。」への肯定的回答 (令和6年度「i-check」)

<新2学年> 62.5% (全国67.9%) <新3学年> 84.6% (全国68.2%)

「自分なりに努力したことがうまくいって、うれしかったことがありますか。」への肯定的回答

<新2学年> 62.5% (全国89.6%) <新3学年> 100% (全国88.5%)

「自分は先生から期待されているんだな、友だちからたよりにされているんだなと感じることがありますか。」への肯定的回答

<新2学年> 25.0% (全国56.3%) <新3学年> 69.3% (全国56.6%)

- 自己肯定感に関する肯定的な回答については、新2年生は、すべての項目で全国平均を下回っている。特に、「自分は先生から期待されているんだな、友だちからたよりにされているんだなと感じることがありますか。」の肯定的回答が25%と大幅に低い。新3学年は、すべての項目で全国平均を上回っている。
- 令和6年12月に実施した生徒アンケートから、「学校生活は充実している」の肯定的回答は81%、「授業に満足している」は89%であった。
- 生徒アンケートから「道徳の授業は好きです。」の肯定的回答は69%、「自分のことを振り返りながら考えています。」「勉強したことを、自分の生活に生かしています。」の肯定的回答は85%であった。
- ☆ 新2年生の自己肯定感が低く、個を伸ばすとともに、お互いを認め合える集団づくりに力を入れていく必要がある。

◆健やかな体

- 令和6年度「新体力テスト」の結果から、全国・県平均を上回っている割合は、新2学年37.5%、新3学年31.3%であった。特に、特に筋力、敏捷性、筋持久力、全身持久力に課題がある。
- 全校での早朝練習や駅伝練習の取組は、9月中旬から10月上旬に実施した。
- ☆ 保健体育科の授業において、単元に関わる体力づくりトレーニングを行うとともに、部活動において、体力づくりに関するメニューを工夫し、生徒が主体的に取り組めるようにしていく必要がある。また、基礎体力の向上については、小中連携を図りながら組織的に取り組んでいく必要がある。

◆信頼される学校

- 令和6年12月に実施した保護者アンケートから、「学校だよりや学級通信などでよく知ることができる。」の肯定的評価は86%、「作木中学校の教育に満足している」の肯定的回答は71%であった。昨年度と比較して低下している。
- ☆ 保護者・地域共に学校の教育活動推進に協力的である。コミュニティ・スクール（3年目）の推進を通して、地域の豊かな人材や教育資源のさらなる活用を通して、地域と共に教育内容を創造し、発展させることを目指していく。
- 令和6年12月に実施した生徒アンケートから、「自分の住んでいる地域のことが好きです。」の質問に対し肯定的回答は77%、「現在または将来、地域に貢献していきたいという思いを持っています。」の肯定的回答は69%であった。
- ☆ 伝承活動や地域の方との活動を通して、生徒の活動場面の確保や活動の質の向上を図ると共に、適時な評価・指導で生徒の地域への愛着や貢献意識を高めていく必要がある。
- 令和6年12月に実施した職員アンケートから、「子供と向き合う時間が確保されている」の肯定的回答は60%、「自分は業務改善を進めることができた」の肯定的回答は50%であった。退校時刻19時は定着している。
- ☆ 職員の多忙感が増えている。教材研究の時間が確保するための工夫、効率的な業務遂行が必要である。